

## 川窪啓資先生 略歴と業績

昭和10年(1935)9月22日高知市に生まれる。

### < 学歴 >

昭和29年(1954)3月 土佐高等学校 卒業

昭和33年(1958)3月 東京大学文学部英吉利文学科 卒業、文学士

昭和34年(1959)3月 東京大学文学部英吉利文学科 研究科 終了

昭和39—41年(1964—66)米国 Duke 大学大学院に留学、ホーソーン学の大家 Arlin Turner 教授のご指導を受く。

米文学で Master of Arts を取得

2004年3月 文学博士の学位を授与さる。(昭和女子大学)

### < 職歴 >

昭和34年(1959)4月 麗澤高校英語教諭(昭和38年3月まで)

昭和38年(1963)4月 麗澤瑞浪高校教諭、英語科主任(昭和39年7月まで)

昭和39年(1964)8月 前掲の米国 Duke 大学大学院に留学(昭和41年6月まで)

昭和41年(1966)9月 麗澤大学外国語学部講師(1973年3月まで)

(担当: 英語学、アメリカ文学史、アメリカ事情、英会話)

同時に麗澤高校英語教諭を1969年3月まで兼任

1962年4月 モラロジー研究所研究部研究員(1969年3月まで)兼任

1978年4月 モラロジー研究所研究部研究員、国際室室長(1985年3月まで)兼任

1973年4月 麗澤大学外国語学部 助教授(1982年3月まで)

1978年7-8月、Duke, Yale, Harvard の三大学で Visiting scholar としてホーソーン研究に従事した、

1982年4月 麗澤大学外国語学部 教授

1990年4月 麗澤大学外国語学部 英語学科主任教授(1996年3月まで)

1996年4月 麗澤大学外国語学部 学部長(2000年3月まで)

1996年4月 麗澤大学 別科日本語研修課程 別科長(1998年3月まで)

2000年4月 麗澤大学 大学院言語教育研究科比較文明文化専攻(前期、後期)比較文明担当 教授(現在まで)

学部担当科目: 時期によって異なるが、初め数年間英語学、英会話。

その後アメリカ文学史、アメリカ事情、イギリス文学史(2007,2008の2年間)

英語講読は全期間。

大学院前期、後期博士課程当科目: 比較文明原論、英米文学特殊研究、研究指導 I、II、III。比較文明文化の修士論文2編の主査、および8編の副査、博士論文2編の副査、およびトインビーについての博士論文1編の主査をして、いずれも合格している。

1990年4月 広池学園評議員(1996年3月まで)

1996年4月 広池学園理事(2000年3月まで)

モラロジー研究所社会教育講師

同 参与

日本ナサニエル ホーソーン協会会長(May 2001-May 2003)、

米国ナサニエル ホーソーン協会終身会員(1978年8月から現在まで)

国際比較文明学会副会長(第I期 1998-2001, 第II期 2001-2004)

日本比較文明学会理事、同名誉理事 2008年10月から。

トインビー(地球)市民の会 理事

### < 著書 >

(1) 単著 *Nathaniel Hawthorne: His Approach to Reality and Art*. Tokyo: Kaibunsha, 2003, xv+298 pp.+ illustrations 17 pp.

(2) 共編『緋文字の断層』開文社出版、2002、『緋文字』150周年記念論文集

(3) 編著『ホーソーンの軌跡——生誕200年記念論集』(開文社出版、2005)、v+392 pp.

(4) 単著『トインビーから比較文明へ』(近代文芸社、2000)646ページ。

(5) 共編著『人間と文明のゆくえ』(日本評論社、1989)

(6) 共編著『文明の転換と東アジア』(藤原書房、1992)

(7) 共編著『講座 比較文明 I』(朝倉書店、1999)

- (8) 共編著 『地球と文明の画期』(朝倉書店、1996)  
 (9) 共著、『比較文明学を学ぶ人のために』(世界思想社、1997)  
 (10) 単著 *Civilizational Soul: Essays in Comparative Civilizations* (Koujinsha, Tokyo, 2009年3月出版予定)

<論文はすべて単著>

- (1) “A Case Study of East-West Synthesis: The Philosophical Background of Emerson’s ‘Over-Soul’ and ‘Brahma.’” 『広池千九郎博士生誕百年記念論文集』 道德科学研究所 1966、pp. 315-330.  
 (2) “Physical Appearance in Hawthorne’s Fiction,” 『麗澤大学紀要』7号、1967、pp. 1-71.  
 (3) “A Study of Choruses from ‘The Rock’ by T. S. Eliot,” 『麗澤大学紀要』10号、1970、pp.11-26.  
 (4) “Hawthorne’s View of Destiny in *The House of the Seven Gables*,” 『麗澤大学紀要』14号、1972、pp. 1-54.  
 (5) “Reality in Hawthorne’s Fiction,” 『麗澤大学紀要』15号、1973、pp. 15-40.  
 (6) “The Image of Christ in *Billy Budd, Sailor*,” 『麗澤大学紀要』16号、1973、pp. 21-32.  
 (7) “What Can We Learn from Hawthorne?” 『麗澤大学紀要』20号、1975、pp. 1-14.  
 (8) “Hawthorne: Encounters between America and Europe,” 『麗澤大学紀要』23号、1977、pp. 7-26.  
 (9) 「ソロー——個人主義の悲劇」、『麗澤大学紀要』25号、1978、pp. 85—92.  
 (10) “*The Blithedale Romance*: Hawthorne’s View of Social Reform,” 『麗澤大学紀要』26号、1978、pp. 45-66.  
 (11) “Art and Artists in *The Marble Faun*,” 『麗澤大学紀要』31号、1981、pp. 1-25.  
 (12) Hawthorne’s *The American Claimant Manuscripts: An Identity Crisis*,” 『麗澤大学紀要』40巻、1985、pp. 167-182.  
 (13) 「セイラムの魔女裁判とホーソン」、『麗澤レビュー』1号、1995、pp. 32-45.  
 (14) 「R. W. エマソンの自然観」、『麗澤レビュー』2号、1996、pp. 29-49.  
 (15) 「ホーソン文学における生と死」、『文学に読む生と死』(岩元、中山編、ホソノスタンベリア、2000、pp. 169-196.  
 (16) “Hawthorne’s Deeper Sense of Reality in His Later Years.” 『麗澤レビュー』9号、2003、pp. 116-138.  
 (17) 『アメリカ万華鏡』(成和、1973) 48 pp.  
 (18) 「ホーソンと伝記」、『麗澤レビュー』8号、2002、pp. 89-95.  
 (19) 「高等宗教の比較考察——アーノルド J. トインビーと広池千九郎の求めたもの」、『比較文明研究』No. 1 (麗澤大学比較文明研究センター 1996)  
 (20) “Civilizations and Morals: legitimacy, the Line of Succession, and Polity” 『比較文明研究』No. 2  
 (21) “The Vistas of Comparative Civilizations,” 単 in *Comparative Civilizations Review*, No. 45 (Dayton, Ohio, U.S.A.: International Society for the Comparative Study of Civilizations, Fall 2001)、pp. 51-67.  
 (22) “Toynbee’s View of Religion in a Multi-Religious World,” 平成 14 年 3 月 25 日 『比較文明研究』No. 7、pp. 11-18.  
 (23) 「広池千九郎と比較文明学」平成 14 年 3 月 25 日 『比較文明研究』No. 7、pp. 117-130.  
 (24) “Women in Civilization: After Equality—What? In the Case of Women in Modern Japan,” 『比較文明研究』No. 3、平成 10 年 3 月 25 日、pp. 49-53.  
 (25) “Civilization and Religion in Toynbee,” 『比較文明研究』No. 3、平成 10 年 3 月 25 日、pp. 41-48.  
 (26) “Global Ethics in Practice,” 『比較文明研究』No. 6、平成 13 年 3 月 25 日、pp. 49-53.  
 (27) 『インド古代思想史における原始仏教成立の意義および釈尊と広池千九郎博士の本体に対する考え方の比較研究』(道德科学研究所、1963)102 pp. モノグラフ  
 (28) “Hiroike Chikuro and Mori Ogai as Cultural Initiators in Modern Japan” 『麗澤大学紀要』59号  
 (29) 「広池千九郎博士と西洋」、『モラロジー研究、no. 25』(モラロジー研究所、1988年9月)、pp. 119-156 & vii-viii.  
 (30) “For the Internationalization of Moralogy—a Tentative Reply to Dr. Lauwerys’ Proposals on National Ortholion—”  
 (31) [モラロジーの国際化のために——Lauwerys 博士の国家伝統に関するご提案に対する管見] 31 と 32 はそれぞれ (『モラロジー研究』No. 8、昭和 54 年、pp. 122—143 と pp. 103—122。

- (33) “Introducing Moralogy: Bridging the East and the West” 『比較文明研究』、4号所収
- (34) “America: “An Enormous laboratory” of Mankind” 『比較文明研究』、14号2009、所収

### <その他>

#### 学会発表など

- 1) 「ホーソンと伝記」シンポジウムの司会および講師 日本ナサニエル ホーソン協会 第20回全国大会 日本大学 平成13年5月 その他略。
- 2) トインビーやソローキンの創設せる国際比較文明学会にて 1994 年以来毎年、英語でモラロジーに基礎を置く発表をしてきた。2001 年 6 月 1 日にはアメリカの Rutgers 大学で “The Status of Japanese Civilization: My Journey for the Discovery of Japan” を 1 時間 15 分にわたって講演した。 “The Status of Japanese Civilizations” Rutgers University, U.S.A. その他略。

#### B. 比較文明学

##### 書評

- (1) Samuel P. Huntington, *The Clash of Civilizations and the Remakings of World Order*, 1996), 『比較文明研究』 No. 4、 pp. 105-112.
- (2) A.G フランク著、山下範久訳 『リオリエント—アジア時代のグローバルエコノミー』(藤原書店、2000) 『比較文明研究』 No 6、 pp.171-182.
- (3) 石弘之、安田喜憲、湯浅赳男 共著 『環境と文明の世界史』洋泉社、2001) 『比較文明研究』 No. 7、 pp. 191-198.

##### 編集長

- 1) 『麗澤大学紀要』
- 2) 『フォーラム』日本ホーソン協会機関誌
- 3) 『比較文明研究』 Nos. 1-13 の編集長
- 6) 書評 Robert E. Ball, *The Crown, the Sages and Supreme Morality*, Routledge & Kegan Paul, 1983. 203 pp. Bibliography and Index. 『モラロジー研

究』 No. 16、1984 年 3 月 31 日、 pp. 101-108。

- 7) 「『王位、聖人、最高道徳』の発刊に寄せて」『所報』1983 年 3 月 1 日、 pp.14-15.
- 3) 和訳 Melko, Matthew, 「調和のとれた対立期にある国家システム」『比較文明』7号 刀水書房、1991。
- 4) 和訳 R. W. Wescott, [比較文明学の現代的課題] 『比較文明』10号 刀水書房、1994。Pp. 200-208.
- 5) 和訳 Michael Plencia-Roth, 「解釈学、対話学 および文明論的分析」『比較文明』10号、刀水書房、1994。Pp. 209-222.

麗澤大学比較文明文化研究センター副センター長  
2006 年 4 月から 2009 年 3 月まで センター長

以下 略

#### C. 建学の精神——Moralogy

道徳科学国際学会にて “Higher Religions and Supreme Morality” を発表した。

#### モラロジー関係の主な英訳は

- 1) *An Outline of Moralogy* (『モラロジー概説』の全英訳) モラロジー研究所、1987、xv+187pp.  
『モラロジー概説』の英訳を終えて」『社会教育資料』1987、 pp. 51-61.
- 2) 『道徳科学の論文』全 11 巻の英共訳 *Towards Supreme Morality*, 4 vols. 翻訳 *Towards Supreme Morality* 4 冊 ( 3 vols. + Index ) 平成 14 年 3 月 20 日モラロジー研究所 英訳委員会及び刊行委員会の一員として 30 年間微力を尽くした。
- 3) *Towards Supreme Morality* (2 と同名だが別もの) 共訳
- 4) “Introducing Moralogy,” およびその Enlarged edition 共訳
- 5) *Moralogy* 共訳
- 6) *Day by Day* 共訳
- 7) *Chikuro Hiroike: Father of Moralogy, A Biography*.1970, 59 pp. 共訳